

広島大学防災・減災研究センター長 海堀 正博



皆さん、こんにちは。本日は、広島大学防災・減災研究センター主催のオープンディスカッション 2021「地域を知り、命を守る～パンデミック下での分散避難～」に御参加くださりまして、まことにありがとうございます。既に御存じのように、広島県をはじめとする中国地方には土砂災害危険箇所が非常に多く、中でも、広島県は以前からずっと土砂災害危険箇所数が 47 都道府県の中で第 1 位の多さとなっています。それだけではなく、その数の増加も突出している状況にあります。

そんな中で、今から 22 年前の 1999 年 6・29 広島土砂災害という名称がつけられた災害で、32 人の犠牲者を出す大災害を経験していますが、その頃はまだハザードマップの公開はありませんでした。しかし、それがきっかけとなって、ハザードマップが翌年から公開され、土砂災害防止法の制定、施行につながっています。しかし、7 年前の 2014 年には、広島市安佐南区や安佐北区の一部の地域にたくさんの雨が降ったことにより、土石流等が集中発生し、今度は 70 人を超える犠牲者につながります。

さらに、3 年前、西日本豪雨とも呼ばれる 7 月の大雨によって、今度は広島県内で 109 人の死者、5 人の行方不明者、40 人を超える災害関連死という、突出して甚大な災害を経験しています。3 年前の災害では、崖崩れ、土石流だけでなく、土砂・洪水氾濫等による被害も多発し、交通網やインフラが寸断される大災害になりました。私たちはそれを単に複合災害というふうに捉えたのではなく、相乗型豪雨災害と捉え、それらの防災や減災を目指して、広島大学の中に防災・減災研究センターを設立し、今日に至っております。

これまでは、災害の原因となる崩壊や土石流等の発生状況や発生メカニズム、豪雨との関係や、様々な災害の発生状況などに焦点を当てて研究し、報告してまいりました。しかし、被害を受ける可能性のあるところに多くの人々が住んでおられますが、本当の危険性をまだまだ他人事のように捉えてしまっている状況が多くあるように感じます。

そこで、今回のオープンディスカッションにおきましては、まずは地域を知ること、そして、命を守るための避難行動に結びつけていただくための、人の心まで考えた情報の在り方、また、避難行動を成功させるための避難所の在り方や移動手段などに焦点を当てたディスカッションを企画いたしました。本日の企画が皆様にとって有意義なものになりますことを心から期待しております。最後までどうかよろしく願いいたします。

